

# エゾマツ



2010年夏季号93

北海道ボランティア・レンジャー協議会

# 目 次

93号 2010年 夏季号

抱負

会長 春日 順雄

## 1 定期総会に関して

- ・総会報告
- ・門村さんの講演 資料
- ・定期総会 議案

広報部  
鶴川 門村 徳男

## 2 自然観察会、調査報告

- ・残雪の塩谷丸山
- ・偲いで赤岩山
- ・三角山登山観察会に参加して
- ・セイヨウオオマルハナバチ防除活動について

小樽市 銭亀 三佐子  
小樽市 北嶋 徹  
札幌市 椎原 信之  
七飯町 岡村 敏夫

## 3 連載

- ・マイマイのこと

苫小牧市 谷口勇五郎

## 4 行事計画などの案内

- ・オオーツク支部秋季研修会について
- ・ボランティア・レンジャー育成研修会
- ・観察会、研修会 担当者
- ・オオハンゴンソウ防除実施計画
- ・希少生物調査協力者のお願い
- ・会員の独自活動紹介コーナー
- ・ボランティア保険・行事用保険について
- ・NOW no1

オオーツク支部  
自然ふれあい交流館

事務局  
事務局  
広報部  
事務局

編集後記

# 抱 負

春日 順 雄

総会の時に周囲を見回したら、みんなが観察会の時の私の「オッシヨウサン」でした。初心者の私は、みんなに教えられ、みんなの真似をして今日に至りました。思いがけず会長という大役を担うことになりました。ボラレン会員の皆様の活力をもとに仕事を遂行していきたいと思えます。よろしく願ひいたします。以下、多少オオボラなのですが、抱負を述べてみます。

## ボラレン御輿をみんなでかつぎましょう

ボラレン組織と活動を御輿に例えてみました。ボラレン御輿は会員みんなで担ぎましょう。多少進路がふらつくかも知れない。多少ゆらぎもあるかも知れない。担ぎ手を止めてしまったら、御輿はひっくり返ってしまいますから、担ぎ手もそれなりの工夫をして担ぐはずで。

ボラレン御輿をかつぐは、担ぎ手の考えや思いの交流が大事なことです。景気よく御輿を担ぐために声を出しましょう。自己主張もしましょう。語り合ひましょう。笑ひましょう。報告・連絡・相談も行ひましょう。

会員同士のボラレン御輿をかつぐ気風や気力のある限りボラレンは安泰であります。ボラレンの活性化と凝集力は、一人一人のかつぎ手が活性化することによって成し遂げられると思ひます。

## ボラレン気風 (カラー) づくり

ボラレンの事業を推進しながら「ボラレンの活動をするのが楽しい、楽しいコミュニケーションがある。」、そんな「ボラレン気風 (カラー)」を培って行くことを大事にしたいと思ひます。これは、今年度の総会で提案し承認されたことです。ボラレンの様々な活動の中で、楽しさを大事にしましょう。

体験的に学んだことですが、「…でなければならぬ」や「…であるべきだ」のように教条的であったり、明るくなかったり、楽しくなかったりすると組織は衰退します。事が成就したのに人心が離れては何にもなりません。急がば回れだ。楽しさこそ大事にしましょう。

ボラレン活動が楽しいといえるようにしましょうや。自然を対象とした会員の学びあいがある。分かった喜びがある。会員同士の会話が楽しい。人を受け入れる温かさがある。活動に笑ひがある。表情が明るい。それでいて気働きもある。そんな気風 (カラー) のあるボラレンでありたいものです。

子ども向けの「ファール昆虫記」に、昆虫も植物も「生きている無限だ」と書いてありました。「無限」に比べたら、私たちの学び得た知識なんかは、些細なものでありましょ。おおらかに、楽しく自然に対峙するボラレン会員でありたいものであります。

## 全道的なボラレン活動の高まりを

かつて、育成研修会は全道各地で開催されていました。その結果、全道各地に会員が存在するようになりました。ところが現在の育成研修会は、札幌に固定化されています。地方にあっては、新会員の補充がありませんから高齢化がすすんでいます。なんたるジレンマ。地方会員の歯ぎしりが聞こえるようです。

だからこそ、札幌と地方支部との連携を！新支部の誕生！などを目指したいものであります。そのためには人の縁、人の絆が大事です。今の内に、縁や絆の残っている今の内にやっておかないと全道的なボラレン活動は出来なくなるでしょう。

総会では、札幌開催の観察会出席者への旅費の助成、支部を代表して総会に出席する人への旅費の助成が承認されました。互いの連携や支え合いで全道的なボラレン活動の高まりが見られるようになりたいものであります。

## 活動の相乗り・共催を大事にしましょう

地方にあっては観察会を開催しても人が集まらないんだそうです。自然のまっただ中に住んでいますから、「自然観察会をします。」といっても人が集まらないのは、理解できます。その解決策をオホーツク支部の活動に見つけました。

オホーツク支部の21年度事業報告を見ました。①学社融合事業「木工作成」遠軽東小 ②森林環境教育「森林教室」芭露小 ③森づくりセンター「親子森林教室」遠軽町瞰望岩見本林 ④総合学習森林教室「森林博士になろう」遠軽東小 ⑤網走支庁への協力「湧湖におけるハクチョウ類の調査」 ⑥学社融合事業「リース・ミニツリーづくり」遠軽小 ⑦授業支援「クリスマスリースづくり・巣箱づくり」芭露小と、出ていました。教育委員会や学校教育・社会教育との協力・共催はボラレン活動の活性化につながると思います。地域の縁や絆を大事にしましょう。

## 道との関わりを大事に

経済的に困難な時です。資金面の助力はまったく絶望であります。しかし、3月に道の自然環境課と話し合いを持ったときに、ボラレンの活動を評価して下さっていることが分かりました。支庁や教育委員会などを通して、ボラレン会員の活用を働きかけるという話を頂きました。有り難いことであります。

昨年、道は育成研修受講者全員にアンケートによる意識調査を行っています。その結果、ボラレン会員になってはいないが活動意欲を持っておると答えた人が結構いることが分かりました。近いうちに、全員にアンケート結果のお知らせがいきます。ボラレン未加入者には、住所・氏名をボラレン事務局に知らせてもいいかという事項を載せるそうです。

近いうちに名簿が来るでしょう。それを受けて、ボラレン会員加入の働きかけを行います。道との関わりを大事にしていきたいと思えます。

## <第25回 定期総会>

広報部

- 提案された議案はすべて承認され 更に活力ある活動をめざして
- 会長に春日さん、事務局長に室野さんを選出する
- 総会に先立っての研修会で 門村さんの貴重な野鳥観察の報告

第25回定期総会は4月17日(土)15時からエルプラザで行われ、提出された議案はすべて満場一致で承認されました。

総会に先立って、会員で鳥類の写真家門村徳男さんの「鵜川河口域の野鳥」というテーマのすばらしい講演が行われました。

まず<門村さんの講演>から報告します。

河口で観察される野鳥は約110種位だそうですが、その半数の50種の野鳥をスライドでいねいに説明してくれました。鳥類に疎い私には見たことも聞いたこともない野鳥が多くいました。鵜川河口に渡来してくるシギ、チドリ類は、2009年には1007羽確認されているようです(環境省の委託を受けて調査)。門村さんは綿密な観察、調査を続け年間約150日もそれに費やしているそうです。なお、詳しくは門村さんが準備してくれてくれたレジメー(「エゾマツ」に掲載)をぜひ参照してください。

<定期総会>に関してレポートします。

総務部の三崎さんから、参加者41人、委任状71人 計112人(会員143人)で総会が成立していることが報告される。

最初に田村会長より、20年以上にわたる活動にふれ、今後ともみんなで支えあう会にしていきたいという力強い挨拶がありました。

来賓として道、環境推進課環境行動推進グループ主査の林由美子さんから、環境推進課としては地域の環境を推進していくために一層の連携をとり協力していきたい。続いて来賓のふれあい交流館の松井則彰さんから、広域的な管理を進めていくことになり、一層充実した魅力的な運営をめざしていきたい。来賓の二人から心あたたまる励ましのメッセージをいただきました。

議長に原田和彦さんを選んで議案の審議に入る。「第1号議案」について、研修部の小林さん、小樽支部の北原さん、続いて春日事務局長から昨年度から新しく取り組んだ行事—セイヨウマルハナバチ駆除、オオハンゴウソウ防除など—、アポイ研修会などの様子が映像を通して話されました。パワーポイントでの説明とても新鮮な感じがして好評でした。会計の橋場さんからの報告、つづいて高松さんからの監査報告があり、「第1号議案」は全員で承認しあいました。

つづく 15ページに

# 鵜川河口域の野鳥

日時：平成22年4月17日（土）

研修会 13：30～14：50

会場：札幌エルプラザ2階 環境研修室1

ボラレン会員 門村 徳男

- 1、 鵜川河口 2009 年春～冬シギ・チドリ
- 2、 2009 年度春期の最大渡来数順によるシギ・チドリの渡来地一覧
- 3、 鵜川河口周辺にて観察された標識鳥
- 4、 鵜川河口周辺で繁殖（可能性含む）している野鳥
- 5、 鵜川河口域で観察できるおもな野鳥（年間 100 種～120 種）  
シギ・チドリは別紙年間 30～35 種、カイツブリ、ウミウ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、シジュウカラガン、マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホオジロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモ、ピロードキンクロ、シノリガモ、カワアイサ、ウミアイサ、ミコアイサ等 23 種前後、タカはミサゴ、トビ、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、ハイタカ、ケアシノスリ、ノスリ、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、ハヤブサ科ハヤブサ、チョウゲンボウ、12 種以上、キジ、カモメ科ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、カモメ、ウミネコ、ミツユビカモメ、アジサシ等 10 種以上、カッコウ、コミミズク、カワセミ、アリスイ、アカゲラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、ツグミ、コヨシキリ、オオヨシキリ、シマエナガ、ヤマガラ、シジュウカラ等およそ 20 種。キジバト、ホオアカ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、ツメナガホオジロ、カワラヒワ、シメ、ニューナイスズメ、スズメ、ムクドリ、コムクドリ、カケス、カササギ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 17 種。  
網掛け部分上から  $(30\sim35+23+12+10+20+17=112\sim117)$  種)
- 6、 野鳥のスライド 50 種くらい。

北海道釧路川河口付近シギ・チドリ月別調査(2009年)平成21年3月から22年2月まで(数字は最大値)

種名	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	種名	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
1 レンカク													35 シベリアオオハシシギ												
2 タマシギ													36 ツルシギ												
3 ミヤコドリ		1											37 アカアシシギ		1										
4 ハジロコチドリ						1							38 コキアシシギ												
5 コチドリ		24	8	1	2	4	1						39 コアアシシギ												
6 イカルチドリ													40 アオアシシギ												
7 シロチドリ		6	10	3			1	1					41 カラフトアオアシシギ		1										
8 メダイチドリ		2	3	3	1	1	3						42 クサシギ												
9 オオメダイチドリ													43 タカブシギ												
10 オオチドリ													44 メリケンキアシシギ		1										20
11 コバシチドリ													45 キアシシギ												
12 ムナグロ		13	25			1	1	1					46 イソシギ		14										4
13 ダイゼン		8	4			2	12	1					47 ツリハシシギ		1	4	1	3	2	3					
14 ケリ													48 オグロシギ			9		1	5						
15 タケリ		3											49 オオツリハシシギ												3
16 キヨウジョシギ					5		1						50 ダイシャクシギ			5									2
17 ヒメハマシギ													51 ホウロクシギ		1	87									1
18 ヨーロッパトウネン													52 チュウシャクシギ												1
19 トウネン		1	600	8	45	16							53 コシヤクシギ			6									1
20 ヒバリシギ		1				5							54 ヤマシギ												
21 オジロトウネン													55 タシギ												
22 ヒメウスラシギ													56 ハリオシギ												4
23 アメリカウスラシギ													57 チュウシギ												
24 ウズラシギ													58 オオシギ												
25 チシマシギ													59 セイタカシギ		1										1
26 ハマシギ		4	200			2	23	20	3	2	1		60 ツリハシセイタイカシギ												1
27 サルハマシギ													61 ハイロヒレアシシギ												
28 コオハシシギ													62 アカエヒレアシシギ												
29 オハシシギ						2	1						63 ツバメチドリ												
30 ミユビシギ													64 コモンシギ												
31 ヘラシギ		2				2		6																	
32 エリマキシギ																									
33 キリアイ						2	1																		
34 オオハシシギ																									
月別種類小計															2	10	21	3	7	23	17	3	2	1	1
年間種類合計															2	11	23	24	24	30	31	31	31	31	31

ホイチヤ一研究会inむかわ 門村徳男

## 平成 22 年度 第 25 回定期総会日程

日時 平成 22 年 4 月 17 日 (土曜日) 13:00~16:30  
会場 札幌エルプラザ 2 階 環境研修室  
受付 13:00~13:30  
研修会 13:30~14:50  
総会 15:00~16:30

### 《研修会》

講師：門村 徳男氏  
演題：「鶴川河口域の野鳥」

### 《定期総会》 司会進行 三崎 篤 氏

(出席・委任状・総会成立確認)

- 1, 開会
- 2, 会長挨拶 田村会長
- 3, 来賓紹介と来賓挨拶

北海道環境生活部環境局環境推進課環境行動推進グループ主査 (自然情報)

林 由美子 氏

自然ふれあい交流館副館長

松井 則彰 氏

- 3, 議長・議事録署名人・選考委員の選出
- 4, 議長就任挨拶と議事録署名人・選考委員の紹介
- 5, 議事

#### 1 号議案

- ・平成 21 年度事業報告
- ・平成 21 年度決算報告ならびに監査報告

#### 2 号議案

- ・平成 22 年度事業計画 (案)
- ・平成 22 年度収支予算 (案)

#### 3 号議案

- ・役員改選
- ・その他

- 6, 議長退任

- 7, 閉会

### 《連絡事項》



# 1号議案

## 1. 平成21年度事業報告

### (1) 観察会事業

月	実施月日	行事名	下見	集合・解散場所	共催	当番	参加人数	
							一般	会員
4	23日(木) 10:00~12:30	春の花を見つ けよう	16日(木)	交流館集合・解 散	共催	春日・熊野	60	12
	10日(日) 10:00~14:30	春のありがとう 観察会	9日(土)	交流館集合・解 散	共催	小林・高松	42	12
5	17日(日) 10:00~12:00	セイヨウオオマ ルハナバチを 駆除しよう	担当者下 見16日 (土)	交流館集合・解 散	主催 研修	室野・牧		22
	23~24(土・日)	アポイ岳研修			主催・ 研修	春日・小林		12
	31日(日) 10:00~14:00	三角山登山観 察会	30日(土)	緑花会館登山 口集合・解散	主催	菅・三崎	5	4
6	7日(日) 10:00~12:30	森の新緑観 察会	6日(土)	交流館集合・解 散	共催	室野 五十嵐	64	10
	14日(日) 10:00~12:30	北広島レクの 森観察会	13日(土)	レクの森入口 集合・解散	主催	佐藤・村上	7	7
7	5日(日) 10:00~12:30	初夏の森観 察会	4日(土)	交流館集合・解 散	主催	春日・室野	20	10
	12日(日) 10:00~12:00	芸術の森周 辺観察会	11日(土)	芸術の森停留 所前集合	主催・ 研修	今村・熊野	7	12
	26日(日) 10:00~14:00	オオハンゴン ソウ防除	25日(土)	交流館集合・解 散	主催・	五十嵐 佐藤	11	19 その他 6
8	6日(木) 10:15~12:30	夏の森の観 察会	7/30(木)	村集合・瑞穂の 池解散(時計回 り)	共催	菅・田村	46	13
	22~23(土・日)	高良野東大演 習林観察会			主催 研修	小林・宮田		18
	28~30(金~日)	ボランティア・ レンジャー育 成研修会						
9	6日(日) 10:00~12:00	恵庭公園観 察会	5日(土)	恵庭公園駐車 場集合・解散	主催	小林・橋場	4	6
	12~13(土・日)	オホーツク支 部秋季研修会			オホ ーツク支 部主			16
	13日(日) 10:00~14:30	秋の花でにぎ わう森を歩こう	12日(土)	交流館集合・解 散	共催	内山・田村	49	9
10	3/4(土・日)	鶴川研修会			主催 研修			12
	15日(木) 10:15~14:30	秋の森の匂い をかこう	8日(木)	村発着・交流館 星休養	共催	熊野・伊藤	52	12
11	3日(火) 10:00~14:30	晩秋の森観 察会志文別コー ス	2日(月)	交流館集合・解 散	主催	佐藤・今村	26	17
	8日(日) 10:00~12:30	秋のありがとう 観察会	7日(土)	交流館集合・解 散	共催	小林・春日	64	14
	23日(月) 10:00~12:30	西岡水源地自 然観察会	22日(日)	管理事務所前 集合・解散	主催	熊野・中林	27	16
1	17日(日) 10:00~12:30	円山登山観 察会	16日(土)	円山登山口集 合・解散	主催	菅・三崎	12	7
2	14日(日) 10:00~12:30	冬の森の観 察会	13日(土)	交流館集合・解 散	共催	内山・春日	47	12
	21日(日) 10:00~14:30	薬岩山登山観 察会	20日(土)	慈恵会登山口 集合・解散	主催	三崎・田村	4	5
3	21日(日) 10:00~12:30	森の中で春を さがそう	20日(土)	交流館集合・解 散	共催	室野・春日	27	14
合 計							574	297

(2) 地方・支部の活動報告

①小樽支部観察会

実施日	行き先	一般参加	ボラレン	補助員	合計	備考
5月 2日	オタモイ～赤岩	44	9	2	55	
5月31日	松倉山と春紅葉	23	3	3	29	
7月 3日	軍用道路	41	7	2	50	
9月12日	塩谷丸山～最上町	21	4	1	26	
10月10日	神居尻山	14	1	0	15	貸切バス
11月7日	小樽市有林・納会	16	3	2	21	納会
2月13日	穴滝(氷瀑)	21	4	1	26	カンジキ
3月27日	最上町～丸山	21	5	2	28	
合計		201	36	13	250	

②オホーツク支部観察会

◆とき：9月12日(土)～13日(日)

◆ところ：遠軽町丸瀬布上武利 丸瀬布農村集落多目的施設

- 9月12日 昆虫生態館の見学 ・スライドによるオホーツク支部活動の様子の交流
- 現地研修「丸瀬布にある滝を訪ねる」～山彦の滝の散策を通して自然案内人としてのかわりかた

(3) 研修会事業

①4月25日(土)

◇演題 「花に戀して」～大雪山の高山植物あれこれ

◇講師 野呂 一夫 氏 (ボラレン会員・上川郡当麻町在住)

<現在> 環境省 環境カウンセラー

<主な著書> 共著「大雪山の高山植物」 北海道新聞社 昭和53年

「北の野草100選」 総北海 昭和59年

共著「当麻町野生植物図鑑」当麻町 昭和60年

②5月17日(日) セイヨウオオマルハナバチ駆除

◇講師 : 北海道開拓記念館資料情報課長・学芸員 堀 繁久氏

◇場所 百年記念塔周辺

◇参加者 22名

③5月23日(土)～24日(日) アポイ岳研修

◇1日目 5合目の高山植物再生の圃場付近の笹刈り。鹿の糞の多さにびっくり

◇2日目 アポイ岳登山自然観察会。可憐な高山植物に出会えた。

④7月26日(日) オオハンゴンソウ防除

◇初めての試み。一般市民にも呼び掛けて実施

◇協力 ・自然環境課野幌森林公園分室・石狩地域森林環境保全ふれあいセンター・自然ふれあい交流館・江別市廃棄物対策課

◇参加者 一般11・ボラレン19・石狩地域森林環境保全ふれあいセンター4

・自然ふれあい交流館2 合計：36名

◇成果 抜根数およそ9000本

⑤8月22(土)～23日(日) 富良野研修会

◇1日目 風のガーデンで植物観察・欧米風なガーデン・宿泊はニングルの家

◇2日目 原始が原の昇竜の滝まで、植物観察。しかし、湿原で強い雨に遭遇した

⑥9月12日(土)～13日(日) オホーツク支部秋季研修会

●詳細は前述

⑦10月3日(土)～4日(日) 鶴川研修会

◇1日目 ウトナイ湖で自然観察研修

◇2日目 鶴川で自然観察研修

(4) 他団体への協力・派遣事業

- ①5月25日(月) 第12回環境道民会議総会 かでる・27 13:30～ 田村・春日出席  
 ②6月2日(火) 9:20～12:00 野幌森林公園クリーンクリーン作戦 5名参加  
 ③10月22日(木) 9:20～12:00 野幌森林公園クリーンクリーン作戦 9名参加  
 ④希少生物調査 (参加登録者数 19)

	ボラレン	石狩地域森林環境保全 ふれあいセンター
4月23日	15	3
5月02日	14	2
5月09日	13	2
5月20日	11	3
6月06日	12	2
6月20日	10	2
計	75	14

(5) 広報誌「エゾマツ」・「NOW」 発行事業

- ①平成21年 6月24日 エゾマツ 89号発行  
 ②平成21年10月21日 エゾマツ 90号発行  
 ③平成22年 1月21日 エゾマツ 91号発行  
 ④平成22年 3月25日 エゾマツ 92号発行

(6) 会議

- ①平成21年 4月25日 平成21年度 第24回定期総会  
 ②平成21年 5月 8日 第1回役員会 環境サポートセンター 18:30～  
 ③平成21年 8月10日 第2回役員会 札幌エルプラザ 18:30～  
 ④平成22年 1月21日 第3回役員会 札幌エルプラザ 18:30～  
 ⑤平成22年 4月13日 第4回役員会 札幌エルプラザ 18:30～  
 ⑥平成21年12月14日 三役・部長会議 札幌エルプラザ 18:30～  
 ⑦平成22年 2月24日 三役・部長会議 札幌エルプラザ 18:30～

(7) 育成研修会の取り組み

- ①6月 7日(日) 自然ふれあい交流館との打ち合わせ  
 ②7月29日(水) 育成研修会担当者打ち合わせ会 18:30～エルプラザ  
 ③8月28～30日(金～日) 受講者26名 ボラレン加入者14名

(8) 北海道環境生活部環境局自然環境課との話し合い

①日時:平成22年3月3日 午後1時半 自然環境課で

②参加者:ボラレン～ 田村・佐藤・三崎・春日

自然環境課から

- ・自然環境課計画推進グループ 主幹 高橋 洋記  
主査 柴田 幹
- ・自然環境課自然ふれあいグループ 主査 林 由美子
- ・野幌森林公園分室 主査 立花 英之 ・ 宮崎

③話題：ボランティア・レンジャー育成研修修了者全員にアンケート調査を実施した。その結果の活用について話し合いたい。～資料別紙

(9) 主催事業などのPR

①印刷物を通して

- ★北海道ウォッチングガイドに掲載 ★札幌市環境局発行「エコポロ」掲載
- ★北海道環境財団月刊ニュースレター「TGAL」掲載
- ★くらしの新聞「まんまる新聞」掲載
- ★チラシ配布 札幌市のクミンセンターに、西岡公園事務所、大麻・北広・南区会員を通して  
ジャスコ札幌平岡・ジャスコ札幌元町・ポスフル藻岩・イオンスーパー手稲山口（ジャスコ関係は9月まで）
- ★道新催しもの欄に

②インターネットを通して

- ★ホームページアドレス <http://volaren.sakura.ne.jp>
- ★メールアドレス [mailbox@volaren.sakura.ne.jp](mailto:mailbox@volaren.sakura.ne.jp)
- ★札幌市環境局のホームページ
- ★市民活動サポートセンターホームページ <http://www.shimin.sl-plaza.jp/>
- ★札幌エルプラザのホームページ
- ★さぼーとほっと基金のホームページ

(10) その他の活動

- ①ボランティア活動保険加入手続き
- ②「さぼーとほっと基金」との関わり
- ③前田一歩園の活動助成申請について
- ④北海道水産林務部森林管理局森林活動課みどり対策グループの対応  
・「みどりバンク通信」月刊。ボラレン行事の掲載
- ⑤オオハンゴンソウ駆除作業
  - ・江別市廃棄物対策課との相談 Ⅱ383-4217
  - ・北海道環境生活部環境局自然環境課野幌森林公園分室対応
  - ・北海道森林管理局石狩地域森林環境保全ふれあいセンター対応
- ⑥札幌市市民活動サポートセンター対応
- ⑦環境道民会議への対応

## 平成21年度収支決算書(案)

平成21年4月1日～平成22年3月31日

収入額 772,471円

支出額 476,856円

差引 295,615円(次年度へ繰越)

### 収入の部

単位:円

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
前年度繰越金	309,105	309,105	0	
年会費	375,000	387,000	12,000	129件×3000
雑収入	55,895	76,366	20,471	保険料、協力謝礼金、ハンドブック売上代
合計	740,000	772,471	32,471	

### 支出の部

単位:円

項目	予算額	決算額	予算対比	摘要
総務部費	110,000	84,695	▲ 25,305	通信費、事務用品費、振替手数料、会議費
事務局費	100,000	59,511	▲ 40,489	通信費、事務用品費、印刷費
研修部費	100,000	85,960	▲ 14,040	研修会謝礼金、研修雑費
活動費	200,000	108,197	▲ 91,803	地方支部活動費、観察会交通費
広報部費	160,000	108,493	▲ 51,507	会報エゾマツ制作費、郵送費
予備費	40,000		▲ 40,000	
特別会計	30,000	30,000	0	特別会計へ繰り入れ
合計	740,000	476,856	▲ 263,144	

### 特別会計(特別積立金)

単位:円

前年度繰越金	増加額	減少額	本年末残高	摘要
290,908	30,119	0	321,027	一般会計より繰入30,000・貯金利息119

### 平成21年度財産目録

平成22年3月31日 単位:円

借方		貸方	
通常貯金	616,642	一般会計繰越金	295,615
		特別積立金	321,027
計	616,642	計	616,642

#### 備品

救急医療セット1箱・聴診器5本・望遠鏡2台  
双眼鏡15台・簡易アイゼン5脚

## 監査報告書

私たち監事は、会則第12条の5に基づき、平成21年4月1日から平成22年3月31日までの会計処理について、会計帳簿および証憑書類を精査確認した結果、適正なものと認めます。

平成22年4月13日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

監事 成田 伸一

監事 高松 文雄



## 2号議案

### 1、平成22年度事業計画

#### (1) 事業計画の方針

目標「自然との共存、日常の実践から」

##### 重点

- ① 会員の意見や社会の要請を受けとめ、会の活動改善に生かす
- ② 観察会と研修会の充実につとめる
- ③ 育成研修会での入会者の勧誘につとめる
- ④ 全道的な視野に立つ

##### 具体化の視点

- ① ボラレンの進む方向と活動領域の広がりを模索する
  - ② 会務のシステム的な遂行を試みる
  - ③ 下見会と下見後の開花情報を効果的なものにする試み
  - ④ 育成研修会のボラレン担当部分の充実
  - ⑤ 主催事業のPRにつとめる
  - ⑥ 「ボラレン展」～自然に魅せられて、の実施
  - ⑦ ボラレン活動の全道的な活性化を目指す
    - 支部を代表して総会出席者への旅費の助成…別紙提案
    - 地方会員が札幌の観察会に出席する際の旅費助成・年間3名…別紙提案
- <会のカラーとして>
- ボラレンの活動をすることが楽しい、楽しいコミュニケーションがある

#### (2) 会議

##### ① 定期総会

・23年度定期総会 平成23年4月16日(土) 札幌エルプラザ

##### ② 役員会、理事会を年4回開催。三役会は必要に応じて開催。

・5月7日(金) 第1回役員会      ・9月2日(木) 第2回役員会

・2月3日(木) 第3回役員会      ・4月11日(月) 第4回役員会

#### (3) 観察会・研修会・調査活動

##### ① 観察会

- ・観察会については別紙による。また、サークル活動の観察会があれば随時実施する。支部合同等の新しい方向を模索する。
- ・観察会の下見と実施後の反省をもとに記録の集積をはかり、活用できるものに仕上げる。
- ・ボラレン主催の観察会には、「観察のしおり」を作成し、配布する。
- ・自然ふれあい交流館と共催の観察会では、「自然観察 NOW」を作成し、

配布する。

② 研修会

・別紙日程で実施。会員の要望と必要を取り入れ新しい試みを模索する。

(4) 活動領域の広がり

- ① 類似研修の植物再生作業の手伝い（笹刈り・アポイファンクラブの協力）
- ② セイヨウオオマルハナバチの捕獲研修（会員の講師による）
- ③ オオハンゴンソウの防除作業（市民参加による）
- ④ その他

(5) 育成研修会

- ① 実施日：10月1日（金）～3日（日）
- ② 研修部を中心とした特別委員会を設立し、立案・実施にあたる。

(6) 他団体への協力

- ① 観察会ガイドの要請については、主催の目的などを把握して協力していく。
- ② 各関係機関や団体が行う自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。
- ③ 希少生物調査には、今年も協力する。

(7) 広報誌「エゾマツ」の発行

- ① 年4回（6月下旬・10月上旬・1月中旬・3月下旬）の発行
- ② 誌面内容と体裁の充実に努力していく。

(8) 支部や地方会員の活動の活性化

- ① 支部を代表して総会出席する人への旅費の助成。
- ② 札幌開催の観察会出席者への旅費の助成。
- ③ 会員の思いや要望を受けとめ、広報誌による交流に心がける。
- ④ メーリングリスト活用による会員間の交流に心がける。
- ⑤ 会員を増やすための働きかけをする。道の調査結果をいかに。

(9) PR活動

- ① 北海道ウォッチングガイドへの掲載
- ② TGA Lへの掲載
- ③ ボラレンのホームページを通して
- ④ 札幌市環境局「えこぼろ」への掲載
- ⑤ 観察会チラシ配布…札幌市区民センター、西岡公園管理事務所、その他
- ⑥ まんまる新聞、道新など

配布する。

② 研修会

・別紙日程で実施。会員の要望と必要を取り入れ新しい試みを模索する。

(4) 活動領域の広がり

- ① 様似研修の植物再生作業の手伝い（笹刈り・アポイファンクラブの協力）
- ② セイヨウオオマルハナバチの捕獲研修（会員の講師による）
- ③ オオハンゴンソウの防除作業（市民参加による）
- ④ その他

(5) 育成研修会

- ① 実施日：10月1日（金）～3日（日）
- ② 研修部を中心とした特別委員会を設立し、立案・実施にあたる。

(6) 他団体への協力

- ① 観察会ガイドの要請については、主催の目的などを把握して協力していく。
- ② 各関係機関や団体が行う自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。
- ③ 希少生物調査には、今年も協力する。

(7) 広報誌「エゾマツ」の発行

- ① 年4回（6月下旬・10月上旬・1月中旬・3月下旬）の発行
- ② 誌面内容と体裁の充実に努力していく。

(8) 支部や地方会員の活動の活性化

- ① 支部を代表して総会出席する人への旅費の助成。
- ② 札幌開催の観察会出席者への旅費の助成。
- ③ 会員の思いや要望を受けとめ、広報誌による交流に心がける。
- ④ メーリングリスト活用による会員間の交流に心がける。
- ⑤ 会員を増やすための働きかけをする。道の調査結果をいかす。

(9) PR活動

- ① 北海道ウォッチングガイドへの掲載
- ② TGA Lへの掲載
- ③ ボラレンのホームページを通して
- ④ 札幌市環境局「えこぼろ」への掲載
- ⑤ 観察会チラシ配布…札幌市区民センター、西岡公園管理事務所、その他
- ⑥ まんまる新聞、道新など



# 平成22年度 観察会・研修会予定

月	行事名	実施月日	下見	集合・解散場所		備考	内容	当番
4	春の花を見つけよう	22日(木) 10:00~12:30	15日(木)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	早春の花・野鳥観察	
	セイヨウオオマルハナバチ防除	25日(日) 9:30~12:00		恵庭公園駐車場集合・解散	主催	捕虫網持参		
5	春のありがとう観察会	9日(日) 10:00~14:30	8日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食・ごみ袋・軍手持参	ゴミ拾い、春の花観察	
	恵庭公園観察会	23日(日) 10:00~12:00	22日(土)	恵庭公園駐車場集合・解散	主催	昼食持参自由	春の花の観察	
	三角山登山観察会	30日(日) 10:00~14:00	29日(土)	緑花会館登山口集合・解散	主催	昼食持参	春の花の観察	
6	森の新緑観察会	6日(日) 10:00~12:30	5日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	初夏の草花	
	北広島レクの森観察会	13日(日) 10:00~12:30	12日(土)	レクの森入口集合・解散	主催	昼食持参自由	初夏の夏花	
	様似研修会	19日(土) ~ 20日(日)			主催		笹刈り 様似山道	
7	初夏の森観察会	4日(日) 10:00~12:30	3日(土)	交流館集合・解散	主催	昼食持参自由	初夏の花	
	芸術の森周辺観察会	11日(日) 10:00~12:30	10日(土)	芸術の森停留所前集合	主催	昼食持参自由	盛夏の花	
	オオハンゴンソウ防除	25日(日) 10:00~12:30	24日(土)	交流館集合・解散	主催	昼食持参		
8	夏の森の観察会	5日(木) 10:15~12:30	7月29日	村集合・瑞穂の池解散(時計回り)	共催	昼食持参自由	夏の花観察、瑞穂の池	
9	秋の花でにぎわう森を歩こう	12日(日) 10:00~14:30	11日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	秋の花観察	
	ボラレン会員作品展	17日(金) ~ 22日(水)		(会場)NHKギャラリ	主催			
10	育成研修会	1日(金) ~ 3日(日)		交流館・野幌森林公園内				
	秋の森の匂いをかこう	14日(木) 10:15~14:30	7日(木)	村発着(交流館昼休憩)	共催	昼食持参	紅葉・木の実観察	
11	晩秋の森観察会志分別コース	3日(水) 10:00~14:30	2日(火)	交流館集合・解散	主催	昼食持参	晩秋を味わう	
	秋のありがとう観察会	7日(日) 10:00~12:30	6日(土)	交流館集合・解散	共催	ごみ袋・軍手・昼食持参自由	ゴミ拾い、木の実・草の実観察	
	西岡水源地自然観察会	23日(火) 10:00~12:30	22日(月)	管理事務所前集合・解散	主催		野鳥・雷上物観察、交流食卓会	
1	円山登山観察会	18日(日) 10:00~12:30	15日(土)	円山登山口集合・解散	主催		野鳥・冬を味わう	
	鷗川研修会	22日(土) ~ 23日(日)			主催		コミズク・ユキホオジロなど	
2	冬の森の観察会	13日(日) 10:00~12:30	12日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	野鳥・雷上物観察、交流食卓会	
	藻岩山登山観察会	20日(日) 10:00~14:30	19日(土)	慈恵会登山口集合・解散	主催	昼食持参	野鳥・動物の痕跡・冬を味わう	
3	森の中で春を探そう	20日(日) 10:00~12:30	19日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	芽吹き・野鳥観察、交流食卓会	

※若干の変更が発生するかも。そんなときは「エソマツ」でお知らせします。  
 ※この予定表は、会員の皆様への案内状でもあります。期日、時間にあわせてお参集願います。  
 ※アポイ岳研修などは、内容が決まり次第、例年のようにハガキでお知らせします。

※ 今年度の富良野研修は都合により中止となりました。

## 2010年度 小樽支部自然観察会予定表 (案)

(北海道ボランティア・レンジャー協議会・小樽支部)

No	月 日	曜日	行き先	行 程
1	5月 8日	土	オタモイ～赤岩	オタモイ交番前～ノイシュロホテル 駐車場
2	6月13日	日	軍事道路	朝里～軍事道路～張碓橋
3	7月 3日	土	雷電山	朝日温泉～雷電山往復・自家用車 乗り合わせ
4	9月 4日	土	塩谷丸山	JR 塩谷駅前～丸山～最上町
5	10月17日	日	穴滝	穴滝往復
6	11月7日	土	天狗山	納会
7	2月5日	土	オタモイ～祝津	カンジキ歩き
8	3月26日	土	春香山	カンジキ歩き

### 参考

- 1, 約一週間前、道新小樽版、読売金曜夕刊等に集合場所、時間等を再掲します。
- 2, 天候などの都合で日時等変更することもありますので、事前の申込をお願いします。
- 3, 参加料は一人300円、交通費は各自負担願います。
- 4, 自家用車の方は、その旨連絡願います。(駐車場の状況・乗り合わせの可否)
- 5, 問い合わせ先は、0134-27-1701, 北原まで

### <定期 総会> 続き

「第2号議案」 事務局長から昨年度から実施してきた外来種の防除、様似研修、各種の観察会の充実、支部活動への支援などが提案されました。「第2号議案」もみさなさんに支持され承認されました。

最後に役員改選に入り、役員選考委員会から、会長に春日順雄さん、事務局長に室野文雄さん、**新役員として安倍隆さん、松井玲子さん**が推薦され、承認される。新会長のもとの、一層力強い運動を展開していきたい。



会長春日さんの挨拶

田村会長は今総会をもって退任されることになりました。田村さんは長い間、会を支え牽引されてきました。今後とも指導をお願いします。

## 平成22年度予算(案)

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
前年度繰越金	295,615	309,105	
年会費	390,000	375,000	会員130×3000円
雑収入	54,385	55,895	保険料、協力者礼金、ハンドブック売上代
合計	740,000	740,000	

### 支出の部

単位:円

項目	予算額	前年度予算額	摘要
総務部費	100,000	110,000	総会案内等通信費、役員会会議費、振替手数料
事務局費	100,000	100,000	通信費、事務用品費
研修部費	150,000	100,000	研修会講師謝礼金、育成研修会経費、作品展経費
活動費	190,000	200,000	地方支部活動費、観察会交通費
広報部費	130,000	160,000	会報えぞまつ制作費、郵送費、取材経費
予備費	40,000	40,000	
特別会計	30,000	30,000	特別積立金へ繰り入れ
合計	740,000	740,000	

平成 22 年度

## ボラレン活動の全道的な活性化を目指す試み

道の自然環境課のアンケート調査により、全道各地のボランティア・レンジャー育成研修受講者の中には活動意欲を持っておられる人がいることが分かりました。

育成研修業務が、指定管理者への移行に伴って受講者は札幌市近辺に偏りがちでありましたが、昨年から地方で活躍しておられる若い世代の参加が見られます。これらの人たちには大事に育てて欲しいものであります。

以上の状況からボラレン活動の全道的な活性化を目指す活動を展開する良い時期にあると考えます。

ささやかであります、今年度は、次の活動の展開を提案します。

### 記

- 1、 育成研修会受講者でボラレンに加入していない人への参加の働きかけを行います。
- 2、 支部立ち上げの機運が出てきた時には、積極的に支援します。

◆以下、3・4に記す事項は、ボラレンの会計規模を考慮し、各年度ごとの提案事項とします。

- 3、 支部を代表して総会に出席する1名については、旅費の実費を助成します。
  - (1) 最も経済的な交通機関を利用することとします。
  - (2) 上限を、1万円とします。
  - (3) 申込先は、事務局とします
- 4、 札幌で開催する観察会に出席する場合は、旅費実費を助成します。
  - (1) 最も経済的な交通機関を利用することとします。
  - (2) 年間、3名とし、先着順とします。
  - (3) 上限は、1万円とします。
  - (4) 小樽・千歳・当別・岩見沢以内は除外します。
  - (5) 申込先は、事務局とします。

この試みの実施は、平成22年度総会決定後、直ちに行います。

実施期間は、平成22年4月17日から、平成23年4月16日までとします。

# 様似研修会

1、期日：6月19～20日（土・日曜日）

2、目的

- (1) 高山植物の再生作業を体験する。
  - ササ刈りを行う
  - 各自、鎌を持参（100円ショップで売っているもので十分です）
- (2) 様似山道をおるく
  - 自然観察
  - 鹿の食害観察
  - 山道歩きを楽しむ

3、宿泊場所：アポイ岳調査研究支援センター（様似郡様似町字平宇）

4、費用：ひとり 4000円

- (1) 内訳
  - 施設使用料：500円
  - シーツ使用料：380円
  - 食事代：19日夕食、20日朝食
  - 懇親会費
  - その他
- (3) アポイ山荘の入浴は各自

5、日程

- (1) 6月19日（土曜日）
  - 13：00 集合（アポイ岳調査研究支援センター）
  - 13：00～17：00 研修  
高山植物の再生事業のお手伝い。ササ刈りを行う。山の中腹までの往復2時間、研修と作業は1時間半程度。
  - 17：00～18：30 入浴・夕食と懇親会の準備
  - 18：30～夕食と懇親会・アポイファンクラブとの懇親会

※シーツ配布・寝床づくり・懇親会準備と後始末・翌朝の清掃など、すべて参加者の活動によって行う。
- (2) 6月20日（日曜日） 様似山道を歩く（所要時間・4時間）
  - 7：00 アポイ岳調査研究支援センター発
  - 半数の車を、山道西口に残し、相乗りで東口に向かう。
  - 8：00 東口から登り始める
  - 12：00 西口着・車を取りに東口へ
  - 12：30～13：00 アポイ山荘着 昼食・入浴・解散

※非常食1食分、軽度のおやつ持参

## 残雪の塩谷丸山

小樽市 銭亀 三佐子

(小樽支部自然観察会参加者)

心なしか春めいてきた3月27日の穏やかな一日、今年度の最後の観察会は小さな祠と錨のある丸山山頂を目指し、天狗山側の最上町からスノーシューやカンジキで登りました。塩谷丸山の標高はわずか629mですが展望は抜群です。運が良ければ遥かに羊蹄山が浮かび、積丹半島の白く連なる山々と青く澄んだ海岸線が見られます。そんな眺めを期待しつつ、28名プラス愛犬2匹の参加者は長い行列となって、一列になり樹林帯から植林の林を抜け、白い山頂に向けて登って行きました。

昨夜、降った雪は野山をうっすらとお化粧して山は予想していたより、まだ冬のたたずまいでした。めったに見ることの出来ない堂々とした立派な赤松の木に感嘆し、樹木の特徴や解説を聞きながら、熱心に質問している人や、小さな春を探して銀色に光るネコヤナギや少し膨らんだ冬芽をいろいろ見比べ見ると、春がもうそこまで来ている事が感じられて、何となく得した気分になり思わずみんな笑顔、笑顔。

冬の楽しみは野山を好き勝手にどんどん歩き回れる事、夏はあまり意識する事のないキタキツネや野兎やヤチネズミ等の小動物の足跡を見つけて身近に存在していることを実感、雪に埋もれた冬をかれらは何を食べ、どのように暮らしているのだろうかと思案し、自然の厳しさと奥深さを思い、感慨深い気持ちになりました。

帰りは登りとは違う斜面を下り、冬の塩谷丸山を堪能しました。この雪景色から春の風景を想像し、また花の季節には是非訪れてみたいと思ひ山を下りました。



塩谷丸山の山頂にて

平成22年3月27日

5月8日(土)肌寒い霧雨の中、赤岩山観察会が開催されました。山中海岸入口から祝津水族館コースである。訪れが少々遅く感じた今年の春、それでも落ち葉の間から春の定番ヒメイチゲ、エゾエンゴサク、カタクリなど、今花が迎えてくれました。

赤岩山は、私の少年期の淡い記憶を思い起こしてくれる場所でもあります。山で遊んだ昔話を少々いたします。私はこの山の東福梅ヶ枝で生まれ(昭和25年8月)幼年期は、中野植物園、赤岩百花園が遊場でした。金子の山から見る赤岩は木立が少なくカラマツ、トドマツの苗木が植林まもない姿で植えられていました。中学時代のスキー授業では頂上(今のアンテナ付近)より思い思いのシュプールを斜面に引き、視界は遮る障害物が何もなく、外国船が入る港、真白な余市岳、手稲、塩谷丸山の山並みが、手に取るように身近なものでした。肩並ぶお地蔵の山道には、エゾイソツツジ、コケモモが茂り、目を楽しませてくれました。私が高山植物の名前を覚えたのもこの時です。頂上付近ではガラス石(水晶)、真下の海岸からは金色の筋石(黄鉄鉱)、石拾いは宝探しの気分でした。ミイラ石(重晶石)に腰掛けてウニ、アワビ取りにも夢中になりました。遊び疲れて腹が減り、信者が置いたばかりの“おまんじゅう”をつい失敬・・・。(お地蔵さんごめんなさい) 又、追分記念碑のノイシュロスホテル側の崖より海岸に下る路もあり、浜では海水浴、キャンプが出来ました。祝津浜では、真黒に日焼けした同級生達が目梨泊の岩から豪快に飛び込む姿が思い出されます。(今水族館のトドがこの岩よりダイビング) 真夏の昼下り、山中、オタモイ方向から迫る海霧が赤岩や祝津浜を包む時、日和山灯台より腹腸をえぐる強烈な霧笛が今も耳に残ります。白龍詣りの信者の列が胎内廻りの細道を登り下りの風景は眩かでもあり神秘的なものでした。霊場ゆえの雑音 赤岩山の北側中腹付近に真夏にも係らず冬山装備の黄色ヤッケ姿の男子、背中にピッケル 距離を置いてすれちがう・・・思つかいはまるで無く人と感じる気配なし。あれ・・・何だ今のは!! 振向けば姿はなし・・・(体験談)

職を辞し自分の時間を持つこの時、手近に自分を包んでくれる自然の有難さを感じます。少年期、手を伸ばせば花も石も海の生物も皆そこにありました。それが当然として育った事に何物にも代え難い感銘を今にして思う。赤岩山、ここにはまだまだ貴重な植物が自生しています。それを絶やしてはなりません。往時とは大分様相が変わっても自然は人間を懐深く迎えてくれます。観光もよからう開発も許します。然し、心してほしい一度破壊したものは戻らぬ事を。亡き赤岩百花園、柴野古老の言葉を偲いだします。

「山には無駄なものは一つも無い、あるとすれば人間が置いたものだ」と。

平成 22 年 6 月 1 日

観察会名：三角山登山観察会

月日時：平成 22 年 5 月 30 日（日）

10:00～14:00

## 三角山登山観察会に参加して

春らしい爽やかな日でした。空は青く晴れわたり、空気も程よく乾燥していて風がそよぎ、ウィンドブレーカーも持ち歩く必要もない程です。でも、デイパックの奥にはしのばせていました。

朝の受付。人がどんどん集まってきました。20～30人はいたでしょうか。緑の腕章を付けた講師の方々も5～6人ほどいます。きょうの案内書らしきペーパーを3枚もらいました。けっこうためになることが書いてあるのです。私は自作のマップ関係のものを4枚ほど持ってきていました。観察会を思って資料を作るのは楽しいものです。もらったものの中に、事前の下見で見られたものが表にしてありました。最近の色々な観察会でよく見られるものです。状態・見る確率などが簡潔に書いてあります。これは後で写真と照らし合わせると役に立ちます。あとは地形図を基にしたルートマップ、それと今後の観察会の予定でした。

さて、いよいよ観察会の始まり。参加者がそれぞれ講師1名に対し5名の斑編成。私は初めての参加だったのでとまどってしまい、最後の斑になりました。先生は、これも初めての経験なのですが、女性の方です。ドキドキです。でも、いつものパターンですが、先生のすぐ後ろにポジションをとり



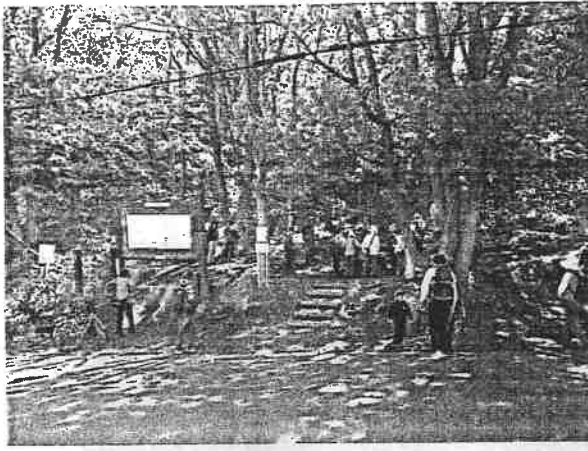
ます。先生の話し声がよく聞こえるのと、解説は全て録音することになっているためです。私は写真を撮りますので写真を撮っている間、よく、説明されている話を聞き逃すことがあり、この教訓でICレコーダーを持ち歩くことにしているからです。

さて、しばらくゆるやかな登りの後、私としては強烈な直登です。息が切れて「ゼーゼー」。思わず「先生、歩くのが早すぎます」。ついグチになってしまいました。解説が始まってからもよく聞き取れません。でも、先生の声は女性の声なので、録音はきれいに録れているんだと内心思ってガマン。それと、初めて聞く名前の植物達が次から次へと出てきます。楽しい。私には知らない事がたくさんあるのです。知らない事がわかるのは楽しいものです。

こんな感じで観察会は終わりました。今回は強烈な直登で、三角山の頂上についたら途中で帰ろうかとも思いましたが、最後まで皆についていけて観察会を終わることができて、少しの満足感もあり楽しい一日でした。また、来年も参加しようと思います。

追記 室野さんシダ植物の本を早く出してください。初めて野幌でお会いした折、シダ植物をスキャンしたものをを見せてもらいました。本を出すと言われてから、かれこれ2年が過ぎました。これ以来、私もマネをして拾ってきた種や葉をスキャンしています。

観察会での写真を何枚か紹介します。

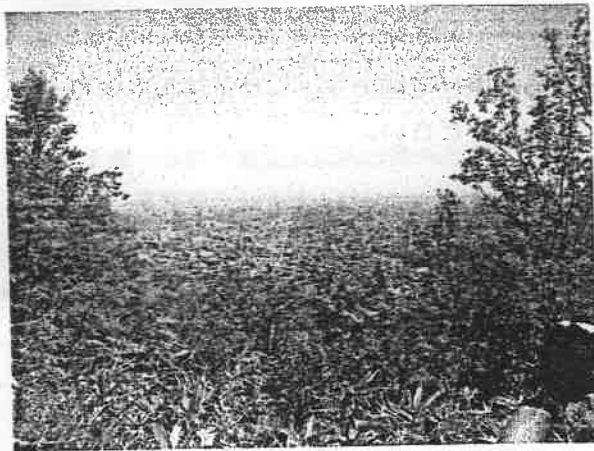


緑花会登山口

知らなかったのですが、緑花会登山口には登山者専用の駐車場が完備されていました。

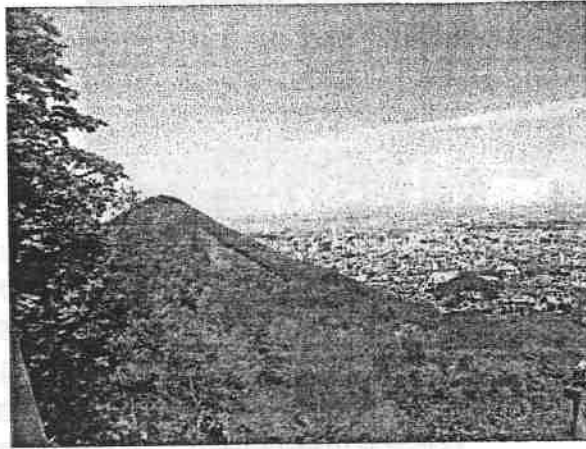


受付風景



三角山頂上から見た札幌市街

新緑がさわやかでとてもきれいです。



大倉山から見た三角山

青い空と山の緑のコントラストがきれいです。



おもいおもいに散らばって大倉山での昼食

追記 写真はメールで送付可能です。リサイズして送ります。  
一度、メールでもください。

メールアドレス：[nss28927@m8.gyao.ne.jp](mailto:nss28927@m8.gyao.ne.jp)

住所：〒062-0932

札幌市豊平区平岸二条18-1-  
30-202

TEL：011-824-1305

氏名：椎原 信之（しいはら のぶゆき）

## セイヨウオオマルハナバチ防除活動について

七飯町 岡村 敏夫

セイヨウオオマルハナバチ（以下、セイヨウ、写真1）については、本誌88号にボラレンとして防除に取り組むことが、同じく89号にはボラレン主催の防除研修会（講演、作業実習）の案内とこの研修会に参加された千歳市の宮本さんの報告が掲載されています。

実は私も「北海道フラワーソン2007」を契機に、東京大学保全生態学研究室が中心になって行っているセイヨウの監視・捕獲のボランティア活動に2007年から参加しています。2007年に行われた第3回フラワーソンでは花の調査に加えて、特別企画としてセイヨウの確認調査が含まれていたことが、その動機でした。

そして翌年以降も継続して監視・捕獲のボランティア活動に参加しており、2008年8月には北海道の「セイヨウオオマルハナバチバスターズ」にも登録しました。登録するとセイヨウの防除従事者証と防除活動の際に着用する腕章（写真2）が交付（貸与）されます。

私の住む道南地域（渡島半島部）は、道の他の地域と比較してセイヨウの生息密度は決して大きくはありませんが、函館平野を中心に間違いなく生息分布域が広がっています。

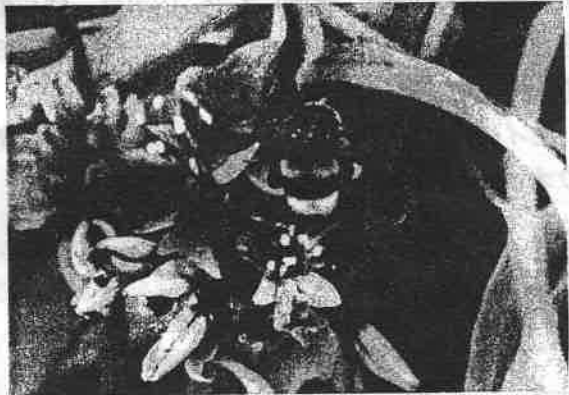


写真1 ムラサキツククサに訪花中のセイヨウ

私の活動のフィールドは自宅の庭が中心ですが（4月半ば～11月半のほぼ毎日、朝・昼・夕の3回チェック）、女王バチも含めて毎年、100頭を超えるセイヨウを捕獲しています。

2007～2008年のボランティア活動を通じて得た知識、情報、資料をもとに、セイヨウの「今」を紹介する私の小文が、私も会員になっている道南の自然史を研究する会の会誌に掲載されました。

会の名称は正式には「自然史研究ネットワーク2000「みなみ北海道」と言い、様々な自然科学の研究活動をとおして、道南の過去と現在の自然を総合的に理解するとともに、将来の自然のあり方について考えることを目的とする会です。具体的な活動内容は講演会の開催やフィールドワーク等で、ボラレンの活動と似たところが多々あります。会員数は110名余りで函館を中心とした道南の大学、国や道などの

セイヨウ  
オオマルハナバチ  
バスターズ



北海道

写真2 道の「セイヨウオオマルハナバチ防除従事者（バスターズ）」の腕章

教育研究機関、民間会社等々、少しでも自然科学に関係している職場に勤めている人、写真家やナチュラリスト等、言わば自然を生業としている人等々、自然大好き人間の集まりです。この会の会誌（年刊）の名称を「オシマノグラフィー」（写真3）と言い、その由来は渡島半島の「オシマ」と、ギリシャ語で書くこと・記述することを意味する「グラフオス・グラフィア」を組み合わせた新造語で、渡島半島の自然史の研究を意味するとのことです。

オシマノグラフィー16号に掲載された私の小文のタイトルはセイヨウオオマルハナバチの監視活動に参加してで、内容は、はじめに、ボランティア活動に参加したきっかけ、セイヨウとはどのようなハチか、セイヨウの監視活動、監視活動の実際、監視活動の結果分かったこと、あとがきで構成、末尾に引用文献を付けました。

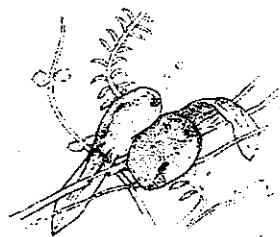
セイヨウに関する諸々の情報は「セイヨウ情勢—市民参加による外来種（セイヨウオオマルハナバチ）モニタリングと対策のためのリアルタイム情報共有サイト」で見ることができ、サイト名は次のとおりです。

<http://dias.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/seiyou/>

このサイトから活動の成果、捕獲速報、参加者からのおたより、参加に関する各種の情報・資料等を入手することができます。2009年の成果をみると、セイヨウの捕獲頭数が49,827頭、モニター数（活動参加者数）が319人となっており、前年(2008)に比べ捕獲頭数は93%、モニター数は107%で、監視の目は広がったのに捕獲は逆に減少しているという結果になっています。継続的な捕獲の効果が出ているのか異常気象（2009年の夏場を中心とした不順な天候）の影響なのか不明です。

モニター活動に参加して今年で4年目、身近な自然、環境の変化の指標にもなるセイヨウの監視をこれからも続けていきたいと思ひます。

Oshimanography



No.16  
2009.11

写真3 オシマノグラフィー（表紙）

# マイマイのこと

苫小牧市 谷口勇五郎

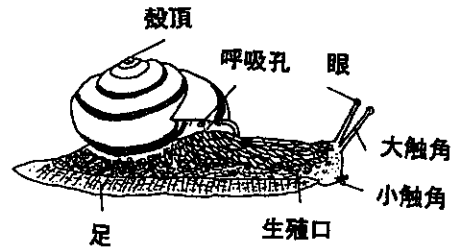
数年前、千歳のさけます孵化場周辺での探鳥会の際、山際に沢山のマイマイがいたのを覚えています。その後も観察会の際など見かけることがありました。

6月頃、暖かい日の夕方、豊川小学校の裏山に沿ってジャリ道を散歩している

と、ササやホザキシモツケの葉の上にマイマイが数匹いました。1匹飼うことにしました。キャベツの葉を与え、霧吹きで湿っぽくし、フンの掃除をしました。鳴くわけでもなく、余り面白味がありません。もう1匹同じ種類を飼い繁殖を試みてはと、今では思います。数日忘れていると、虫かごの上方に付着し殻の口は白っぽい膜でふさがっています。取り外し、霧吹きで湿らすと動き出します。

マイマイ（カタツムリ）は軟体動物の腹足綱（巻貝）に属し、陸上にいるので陸貝ともいい、空気呼吸です。雌雄同体で1匹の体の中に卵も精子も作るのですが、他の個体と交尾して精子を交換するといいます。この辺にいるのはエゾマイマイとサッポロマイマイで、前者は殻が薄く、球形で成体では殻の口がラップ状に反転します。殻は普通、無帯が多く、たまに褐色帯を持つといます。後者は比較的、平べったく、7～8割は褐色帯を持つそうです。飼いだしたものは、サッポロマイマイの方でした。この辺にはヒメマイマイというのもいるそうですが、まだ見たことがありません。

09年11月初旬、札幌で「カタツムリの話」の元教授の講演に参加しました。腹足綱には前鰓亜綱（多くは海産で陸産もわずか）；雌雄異体でふたがある、タニシ・サザエなど。後鰓亜綱（すべて海産）；ウミウシなど。有肺亜綱（すべて陸産）；雌雄同体でふたがなく、肺呼吸、広義のカタツムリ。北海道には55種程いるそうです。この中でケシガイという種は触角の根元に目を持つが、他は大きい触角の先端に目があり、ナメクジやオカモノアラガイも含まれます。大きいものは10種もなく、数mmとか1mm内外のものも多く、こうした微小種は落ち葉などにおり、落ち葉を水に入れ沈んだものを顕微鏡で見ながら採集すること。ヒメマイマイとサッポロマイマイでは前者は殻頂は黒くなく、色帯や巻きの末端は細く、殻は小さく、地域により形が異なることでした。また、マイマイには寄生虫がいることがあるのでゴム手袋をつけて取り扱いには注意ということでした。今の分類は殻ではなく生殖構造などの内臓によることでした。



平成22年5月30日(日)

各位

北海道ボランティアレンジャー協議会  
オホーツク支部長 和泉 勇

### オホーツク支部秋季研修会について

日頃より、当支部活動にご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。  
さて、標記について、下記の通り開催することと致しましたのでご案内致します。  
多数のご参加をお待ち申し上げます。

#### 記

- 1、日時 平成22年9月4日(土) 午後3時～5日(日)
- 2、場所 集合及び宿泊先 「やすらぎの宿 B&Bあばしり」  
(旧サイクリングターミナル)  
網走市桂町4丁目7番2号  
☎ 0152-61-4455
- 3、日程等
- |        |     |                          |
|--------|-----|--------------------------|
| 9/4(土) | 集 合 | 15:00                    |
|        | 研修会 | 15:30～17:00              |
|        | 講 師 | 境 博成 氏 (東京農大元教授)         |
|        | テーマ | 「野生リンゴから酒を作る話」「アッケシソウの話」 |
|        | 懇親会 | 18:00～                   |
- 9/5(日) 野外観察 8:30～11:00 (現地解散)  
呼人探鳥遊歩道の散策(網走湖に突き出る呼人半島の東側自然林を歩きます。)
- 4、負担金 宿泊、懇親会込み 1名6,000円(当日現金にて申し受けます。)

- \* 連絡先 網走市潮見5丁目122-15  
ボラレン・オホーツク支部事務局  
法師人 春輝(ほしと はるき)  
☎ 0152-43-1942

# ボランティア・レンジャー育成研修会

## 受講者 募集



北海道には豊かな自然がたくさんあります。この豊かな自然をより多くの人に楽しんでもらい、また自然環境を大切にしてもらうために「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」が、各方面で活躍しています。

今年も自然ふれあい交流館や野幌森林公園をフィールドにして「ボランティア・レンジャー」を育成する研修会を開催します。

「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をしてみたい方など、初心者向けの内容となっていますのでお気軽にご参加下さい。

人と自然との橋渡し役でもある「ボランティア・レンジャー」になりませんか！

◇開催日 平成22年10月 1日（金）～3日（日） 3日間の研修会です（雨天決行）

◇場所 自然ふれあい交流館、野幌森林公園

◇内容  
1日（金） 自然と楽しむ「アウトドアゲーム」、安全管理のための「救急法」  
2日（土） 野幌森林公園に関する「講演」、自然体験・観察の「プログラム作成と解説方法」  
人と自然との関わり方の「観察会」「サンセットウォッチング」  
3日（日） 「プログラムのフィールド発表」など  
※ 詳しいプログラムは裏面に記載しております。



◇費用 無料  
※宿泊費、現地までの交通費、食事代などは各自負担願います。  
※各当日は原則、現地集合、現地解散となります。  
※自然ふれあい交流館（大沢口）の駐車場は無料。

◇定員 30名（受付期間：7月1日～8月31日 なお、定員になり次第締め切り致します。）

◇対象 3日間通して参加できる方、満18歳以上で自然に興味・関心がある方

◇申込方法 ご希望の方は電話にて下記の情報をお伝えの上、お申し込みください。  
「氏名」「住所」「電話番号」「年齢」「交通手段（自家用車・公共交通機関）」

◇その他 当研修会に受講された方には、受講証と自然解説員のバッジを交付いたします。  
また「北海道ボランティア・レンジャー協議会」への入会も可能です。（希望者のみ）

主催：自然ふれあい交流館 共催：北海道ボランティア・レンジャー協議会

お申し込み・お問い合わせ先・・・

北海道立野幌森林公園 自然ふれあい交流館

〒069-0832 江別市西野幌685-1

電話 011-386-5832 FAX 011-388-7058

メール nfpvc@kaitaku.or.jp



# ボランティア・レンジャー育成研修会 2010 ～プログラム～

## ○1日目【10月1日(金)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:20	開講式・オリエンテーション
10:30～12:00	野外実習【アウトドアゲーム】 ～自然とのふれあいを楽しむ
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～16:00	救急法（一般講習）
16:10～17:00	講義【自然について】
17:00	終了・解散

## ○2日目【10月2日(土)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～11:30	野外実習【自然観察会】 ～ボランティア・レンジャーの活動の実際 ～自然体験活動の指導法
11:40～12:10	講義【プログラム作成と解説方法（導入）】
12:10～13:00	休憩（昼食）
13:00～14:30	講演【未定】 講師：島田明英氏（自然ウォッチングセンター代表）
14:40～17:30	実習【プログラム作成と解説方法】～グループワーク～
17:30～17:50	休憩
17:50～19:00	野外実習【ナイトウォッチング】
19:00	終了

## ○3日目【10月3日(日)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～11:30	実習【プログラム作成】 ～グループワーク～
11:30～12:30	休憩（昼食）
12:30～15:00	発表【フィールド発表】
15:00～15:30	ふりかえり
15:30～16:00	まとめ・講義 【北海道ボランティア・レンジャー協議会と、 ボランティアを行うにあたって】
16:00～16:30	閉校式・アンケート記入、解散

◇持ち物：野外活動に適した服装（長袖・長ズボン）、雨具、昼食・2日目夜の軽食など

◇アクセス：新札幌バスターミナル北レーン10番乗り場より

自然ふれあい交流館へは・・・JRバス「文京台循環線」乗車、【文京台南町】下車、徒歩10分

※天候や主催者側の都合により、プログラムを変更する場合があります。

指定管理者制度が導入され、野外博物館北海道開拓の村を管理運営している(財)北海道開拓の村が、平成19年4月1日より自然ふれあい交流館を管理運営しております。

# 平成22年度 観察会・研修会予定(前期) 会員用

月	行事名	実施月日	下見	集合・解散場所	備考	内容	当番
4	春の花を見つけよう	22日(木) 10:00~12:30	15日(木)	交流館集合・解散	共催	早春の花・野鳥観 察	室野・菅
	セイウオオオマルハナバチ防 除	25日(日) 9:30~12:00		恵庭公園駐車場集 合・解散	主催	捕虫網持参	宮本・室野
5	春のありがとう観察会	9日(日) 10:00~14:30	8日(土)	交流館集合・解散	共催	屋食・ごみ袋・ 軍手持参	小林・室野
	恵庭公園観察会	23日(日) 10:00~12:00	22日(土)	恵庭公園駐車場集 合・解散	主催	屋食持参自由	小林・松井
	三角山登山観察会	30日(日) 10:00~14:00	29日(土)	緑花会館登山口集 合・解散	主催	屋食持参	熊野・菅
6	森の新緑観察会	6日(日) 10:00~12:30	5日(土)	交流館集合・解散	共催	屋食持参自由	今村・内山
	北広島レクの森観察会	13日(日) 10:00~12:30	12日(土)	レクの森入口集合・ 解散	主催	屋食持参自由	佐藤・我妻
	様似研修会	19日(土)~ 20日(日)		アポイ岳研究支援 センター前19日(土)	主催	笹刈り 様似山道	小林・五十嵐
7	初夏の森観察会	4日(日) 10:00~12:30	3日(土)	交流館集合・解散	主催	屋食持参自由	春日・小林
	芸術の森周辺観察会	11日(日) 10:00~12:30	10日(土)	芸術の森停留所前 集合	主催	屋食持参自由	安倍・成田
	オオハングンウ防除	25日(日) 10:00~12:30	24日(土)	交流館集合・解散	主催	屋食持参	室野・内山
8	江別教育委員会依頼観察会	30日(金) 13:00~15:30	29日(木)	大沢口集合・解散	主催	野幌原生林の散策	熊野・菅
	夏の森の観察会	5日(木) 10:15~12:30	7月29日(木)	村集合・瑞穂の池解 散(時計回り)	共催	夏の花観察、瑞穂 の池	菅・室野
9	秋の花でにぎわう森を歩こう	12日(日) 10:00~14:30	11日(土)	交流館集合・解散	共催	秋の花観察	小林・三崎
	ポラレン会員作品展	17日(金)~ 22日(水)		(会場)NHKギヤ ラ	主催		田村・熊野

ホームページ:<http://volaren.sakura.ne.jp>

メールマガジンは登録しないと使えません

メールマガジンは登録しないと使えません

メールアドレスを持っていない方は事務局へ

北海道ポラレンティア・レンジャー協議会 事務局

室野文男 Tel/fax 011-897-7186 携帯 090-5957-9297

Email: [fum-murono@hokkaidou.me](mailto:fum-murono@hokkaidou.me)

# オオハンゴンソウ防除実施計画書

- 1, 特定外来生物の種類 *Rudbeckia ladiniata* L. (オオハンゴンソウ)
- 2, 防除を行う区域 北海道立野幌森林公園の全域 (別掲「区域図」のとおり)
- 3, 防除を行う期間 防除認定の日から平成23年3月31日まで
- 4, 野幌森林公園内における生育等状況  
野幌森林公園内のオオハンゴンソウは、年ごとに生育範囲を広げている。北海道ボランティア・レンジャー協議会が観察会のフィールドとしているところも、その繁茂ぶりは目に余る。すでに、在来の植物に代わって繁茂している。由々しい状況になっている。
- 5, 防除の目標
  - (1) 生育の増大地域において、継続的な防除を実施し被害の低減化をはかる。
  - (2) 駆除効率を上げるために、今後の防除方法の確立をはかる。
- 6, 駆除の方法
  - (1) 調査  
現在の生息等の情報の知見に加えて、防除を行う地域において可能な限り詳細な生育状況及び被害状況などの情報収集を行い、その知見に基づいて効率的な防除に努める。
  - (2) 採取の方法  
オオハンゴンソウの開花が始まるこの時期は他の植物との見分けが付きやすい。花を目印にオオハンゴンソウを一本一本手で抜き取る。
  - (3) 採取個体の処分  
根と花を茎から切り離しゴミ袋に入れ、江別市のゴミ収集車で運び、焼却処分する。茎と葉は、防除作業区域内に積み上げ堆肥化する。  
※ゴミ収集車の出勤は、交渉継続中である。不可能になったときは、北海道ボランティア・レンジャー協議会の会員の車で江別の処理場に運搬する。
  - (4) 採取の際の留意時刻
    - ① 採取時には軍手を着用するなど、けがや事故の発生防止に万全の対策を講じる。
    - ② 在来の野生植物を誤ってとらない、根を傷めないことに留意する。
    - ③ 従事者等による個人的な持ち帰り及び野外への放置のないよう監視を強化する。
    - ④ 防除従事者に対し防除の内容を具体的に指示するとともに、適切な防除と安全に関する知識及び技術を確保することとし、別記1、「野幌森林公園オオハンゴンソウ防除従事者台帳」を作成し、「北海道ボランティア・レンジャー協議会」で管理するとともに、原則として毎年4月に更新する。なお、必要に応じて随時更新出来るものとする。
    - ⑤ 一般市民に採取に関する誤解を与えないよう作業区域には、「オオハンゴンソウ防除作業実施中」の看板を掲示すると共に、特定外来生物法に基づく防除を実施していることを証する別記2「野幌森林公園オオハンゴンソウ防除従事者証」を携帯し、地域住民や散策者に説明を求められた場合には、防除の趣旨について説明する。

(5) モニタリング

生息状況及び被害状況を適切にモニタリングし、防除の進捗状況を点検するとともに、その結果を防除の実施に適切に反映するよう努める。

7. 関係者との調整など

(1) 防除場所の国有林と道有林の管理者への連絡・連携

・道有林は、「北海道環境生活部環境局自然環境課野幌分室」との連絡調整。合意済みである。

・国有林は、石狩森林管理署との連絡調整。合意済みである。

(2) 集合場所の自然ふれあい交流館との連携。合意済みである。

(3) 焼却処分について、江別市廃棄物対策課との連絡調整

・オオハンゴンソウの根の入ったゴミ袋をゴミ収集車で運び、焼却処分について無料でやっていただくことで、話し合いが進行中である。

(4) 当該防除における財政的及び人員能力の確保

- ① 当該防除に於ける費用は、原則として、0円ということで実施する。したがって、参加者には、軍手・ゴミ袋持参、事故に対する保険も、  
。なお、やむを得ず出費の必要ある場合は、北海道ボランティア・レンジャー協議会の会計で処理する。
- ② 人員の確保については、北海道ボランティア・レンジャー協議会の会員と一般市民を考えている。一般市民の参加を促すために、当該防除作業の周知活動を展開する。
- ③ 植物生態系の保全及び防除に関する技術の習得は、事前の北海道ボランティア・レンジャー協議会会員による研修会での徹底をはかる。一般市民へは北海道ボランティア・レンジャー協議会会員が周知徹底する。

(5) 当該防除の周知

一般市民へ当該防除の周知と参加を促すために、当協議会のホームページは勿論のこと、様々な広報媒体によるPR活動を行う。

8. 以上の他、防除の実施にあたっては、関係法令を遵守するものとする。

# 道立野幌森林公園 オオハンゴウソウの分布



## 特定外来生物「オオハンゴウソウ」の防除

平成22年7月25日(日曜日) 10:00~12:30  
 集合場所: 野幌森林公園 大沢口ふれあい交流館

主催: 北海道ボランティア・レンジャ協議会  
 協力: 石狩森林管理署: 野幌森林事務所  
 : 自然 ふれあい交流館  
 (指定管理者: 財団法人 北海道開拓の村)  
 : 江別市廃棄物対策課

防除認定書、環北地野許第09031001号



西野幌林道

調査 2010.5.17~19

道立自然公園野幌森林公園区域及び公園計画図  
 昭和58年-1:10,000図を使用した。

平成22年4月17日

# 希少生物調査協力者のお願い

北海道ボランティア・レンジャー協議会

今年も昨年に続いて、野幌森林公園の森作りの一環として行われる希少生物調査に協力します。窓口は、石狩地域森林環境保全ふれあいセンターです。

## 記

1. 昨年の協力者は、次の方たちでした。今年も、よろしくお願いします。

安倍 隆	室野 文男	成田 伸一	松井 玲子	宮本 健市
菅 美紀子	内山 恭子	熊野 美子	三浦 治彦	中西 敏雄
佐々木幸夫	春日 順雄	加納 勝義	伊藤 秀平	吉田 政徳
牧 茂	田村 允郁	土屋 忠司	今村ひろこ	

※メーリングリストに加入している人にはパソコンで、その他の人には電話で確認をします。

2. 今年、新たに協力して下さる方は、室野宛に連絡をお願いします。

室野 文男 電話 897-7186

E-mail : ~~farm-furono@blue.vecceed.ne.jp~~

3. 今年の予定

・4月22日(木) 13:30~15:00 観察会終了後

集合場所：野幌小学校の近くのパークゴルフ場

土地不案内の方は、12時40分に自然ふれあい交流館にお集まり下さい。

※この日以後の集合場所は、進捗状況に合わせて調査終了後に決めます。

・4月30日(金) 10:00~12:00

・5月8日(土) 13:30~15:00 観察会下見後

・6月5日(土) 13:30~15:00 観察会下見後

・6月12日(土) 13:30~15:00 北広観察会下見後

・6月17日(木) 10:00~12:00 予備日

以上

## 会員の独自活動の紹介コーナー

### \*あんばい たかし写真展

<森の精霊たち>

- ・日時 6月19日、20日  
10時～16時
- ・場所 江別市野幌公民館
- ・ワークショップも開催

【残念ながら終わってしまいましたが】

☞ 絵画展、写真展 研究発表がありました

### \*熊野美子さんの絵画のグループ展

4月上旬 「小女」、風景画

現代の喧騒する社会のなかで成長する  
小女の不安な様子を生き生きと描かれて  
いました。

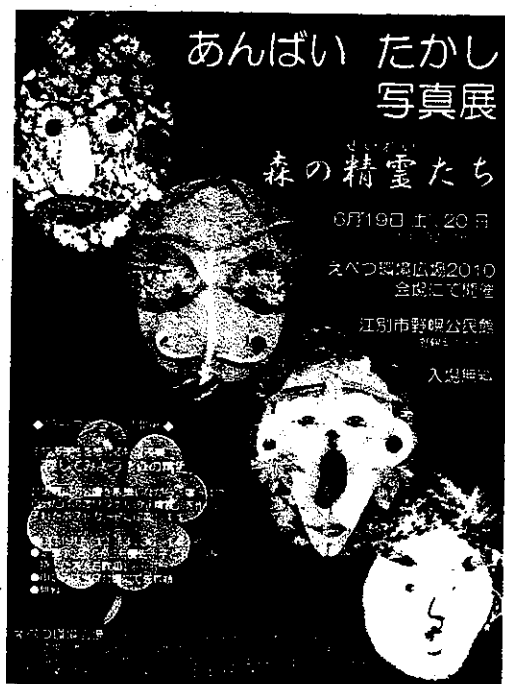
### \*内山恭子さんの写真展

<野生のチューリップと一緒に咲く花たち>

- ・5月11日～5月30日
- ・場所 野幌森林公園ふれあい交流館
- ・チューリップの原生地であるカザフスタンで咲く野生のチューリップの姿と一緒に咲いている花たちを写真で紹介します。約30点の展示です。

### \*五十嵐一夫さんの発表

- ・環境省主催の<地域からの循環型社会づくり>のシンポジウムで
- ・環境省発行の『環の道』第18号に次のように記載されています。  
<当別町企画部企画課長 五十嵐一夫氏から「当別ふれあいバスによるバイオマスディーゼル燃料活用の取り組み」と題して、コミュニティバスによる地域レベルでの廃食用油の利活用やそれをきっかけとした環境教育の推進について発表を頂きました。>



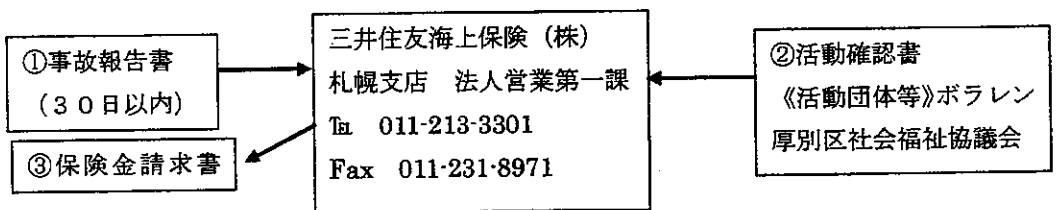
ボラレンでは会員の全員にボランティア保険、ボラレンが主催行事についても一般参加者のために保険に加入しています。

保険金はボラレンが関与する行事、観察会等のボランティア活動に対する事故等に保険金が支払われます。

ボランティア保険はAタイプ)、行事用保険(A型20、30名)に加入しています。

保険加入証を「エゾマツ」の発送時に同封します。

事故があった時の手続きの手順について



※保険金は自動車の交通事故のように治療費の満額が払われるような保険ではないので、保険治療ができません。

Aタイプの場合の補償の内容が通院の日数(4,000円/1日)や入院(6,000円/1日)、死亡(1500万円)の補償になっています。

事故報告書の書式は別図のようになっています。補償の金額は少ないのですが、保険金は会費の10%の金額を使用しています。いままで事故がなく保険を使用したことはありませんが事故に対応できる準備をしておく必要があること、ボラレン全員に対してこのような保険に加入させる必要あるのか? 行事用保険でボラレンを含めた保険を見当すべきか? ボラレンの会員の多くがいろいろな会に加入していて重複して保険料を負担している可能性もあります。ボラレンは補助金で活動していない会なので経費の負担をできるだけ少なくする必要があると考えます。



フクリ企画サービス 行き FAX: 011-221-0118	ボランティア活動等行幸用保険 事故報告書
-----------------------------------	----------------------

報告者氏名: <u>室野文男</u>	TEL: ( )
今後のお問合せ先および保険金請求書類送付先: 〒004-0002 <u>札幌市厚別区厚別東2条5丁目17-1.</u>	
加入団体・加入者・その他 ( ) <u>事務局.</u>	TEL: <u>090(5957)9297.</u>

契約内容	加入受付社名 <u>札幌市厚別区社会福祉</u>	加入年月 <u>22年4月</u>	(保険契約者) <u>札幌市社会福祉協議会</u>
	加入プラン	<input checked="" type="checkbox"/> A型 (開始を伴わない活動)	<input type="checkbox"/> B型 (開始を伴う活動)
	被保険者	(住所) 〒 - フリガナ (氏名) (未成年の場合の親権者氏名) 性別: 男・女 生年月日: 大正・昭和・平成 年 月 日	
	加入団体グループ	<u>北海道ボランティア・レンジャー協議会.</u>	

事故内容	事故日時	平成 年 月 日 午前・午後 時 分ごろ		
	事故発生場所	事故区分	<input type="checkbox"/> 傷害事故	<input type="checkbox"/> 賠償事故
	事故状況	※詳しくご記入ください。		
	医療機関	(名称)	備名	部位
		入院 有 無	月 日 ~ 月 日	
		入院した場合で手術の 有 無	手術名 ( )	
		TEL: ( )	通院 有 無	月 日 ~ 月 日
賠償事故の相手および被害物	※賠償事故の場合は以下にもご記入ください。 (住所) 〒 - (被害物・損害の程度) フリガナ (氏名) (未成年の場合の親権者氏名) 性別: 男・女 生年月日: 大正・昭和・平成 年 月 日			
通信欄				
保険会社欄				

# 自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成22年度 NO1

平成22年4月22日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

これは、4月15日のシナノキの冬芽です。まだ、冬眠中です。今年のサクラの開花予想は、大型連休の終わり頃と予想されていますから。野幌森林公園の木々の目覚めは、5月中旬頃でしょう。

目覚めが早いと、朝夕の寒さや霜の害を受けます。目覚めをいい時期に行う能力は、木々が途方もない長い年月の中で遺伝子情報として組み込まれたものです。世代を重ね、生き抜き、命をつないできた能力です。

## これからの観察視点

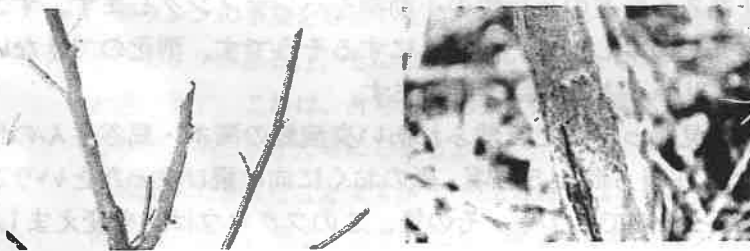
- 1, 芽吹き of 早い木と遅い木があります。目覚めの遅い木はどれかな。
- 2, 芽吹きの色は、木によって違います。鮮やかな緑、紅色、銀白色など。いろいろな色を見つけましょう。



このハンノキの写真は、3月24日に野幌森林公園で写したものです。早くも雄花穂(ユウカスイ)が大きく成長しています。シラカンバ、ケヤマハンノキ、アサダ、ツノハシバミなどは、早い時期から雄花穂が大きくなります。いずれも風の力を借りて花粉を飛ばします。虫の力を借りないので、蜜は出さない、

花びらはない。あるのは、雌しべと雄しべという花のつくりです。木々の葉が茂っていないから花粉は風に乗って遠くまで飛んでいくでしょう。花粉を飛ばすのにいい時期を選んだ巧みな生き方です。

これからが花粉の時期です。花粉症のアレルゲンの一つにシラカンバ花粉があります。



エゾユキウサギとエゾヤチネズミの食痕です。どちらも風倒木被害の再生事業としてボランティアの人たちが植林したシラカンバの木が被害を受けています。両者とも林業に害を及ぼす動物です。

- 1, エゾユキウサギとエゾヤチネズミの食痕の違いは？
- 2, 左の木は、芯まで食べられていました。立ち枯れるでしょうか、頑張っていて成長していくでしょうか。
- 3, エゾヤチネズミに食べられたシラカンバは助かるでしょうか。食痕は木の周囲を一周していますが、木部が露出していない状態です。



4月から5月にかけての林床は、一年を通して最も賑やかです。スプリングエフェメラル（春のはかなきもの）と呼ばれる春植物の開花が始まります。およそ3ヶ月で、発芽、開花、結実を終わらせる短距離ランナーです。

寒冷環境に耐えなければなりません。まだ昆虫の活動の少ない中で受粉もしなければなりません。

フクジュソウの花はパラボラアンテナの形をしています。太陽の光を集めた柱頭付近の温度は外気温より6℃ほど高くなるそうです。集まってくる昆虫は、ほとんどがハエやハナアブなどのハエ目昆虫。虫媒花なのに蜜を出さないフクジュソウは、温かい居場所を提供することによって花粉の媒介をしているのです。

パラボラ形のアンテナは太陽を追いかけます。花も茎も葉も全体で太陽を追いかけます。「観察した200花のうち約50%は正確に太陽を追いかけており、太陽の方向からの偏差が90度以内のものまで含めると95%に達する。太陽と反対方向を向いていたものは全体のわずか5%程度であり、そのほとんどは立木の影にあたり、ほかの植物に邪魔されて花の向きを変えることができないものであった。」(北海道大学・工藤 岳氏の論文「パラボラアンテナで熱を集める植物～太陽を追いかけるフクジュソウの花」から引用)



3月24日。大沢口の木の洞にフクロウが飛来しました。私が通りかかったときは発見されたばかりだったので見物人は少なかったです。それから数日はイッパイの人で賑わったことでしょう。目をつぶり、春の光を浴びて、人の喧噪をものともせず、身体を休めていました。

フクロウは、猛禽類で夜行性のハンターです。エゾヤチネズミやトガリネズミなどの夜行性の小動物をハンティングします。すごく胃が丈夫なのでしょう、丸呑みにするそうです。消化のできない骨や毛はペリットとしてはき出します。

夕方、見張っていた自然ふれあい交流館の濱本・扇谷さんの情報によりますと、このフクロウは、午後6時15分頃、森のおくに向け飛び立ったということです。夜のハンティングに向かったのでしょうか。その後、このフクロウは居を変えました。行き先はわかりません。

### 観察会の予定

- 5月9日 春の有り難う観察会 午前10時～午後2時半 自然ふれあい交流館集合  
昼食・ゴミ袋・軍手持参
- 5月30日 三角山登山観察会（ボラレン主催）午前10時～午後2時  
緑花会館登山口集合解散・昼食持参・三角山から大倉山まで歩きます

## 編集後記

- ・表紙は熊野美子さんがエゾエンゴサクに覆われた月形町の「皆楽公園」でスケッチしたものです。
- ・定期総会、今年度取り組むべき課題などが多くボリュームのある機関誌になりました。そのため、会員の原稿が少なかったかもしれません。
- ・総会に先立って、会員で鶴川の門村徳男さんのステキな講演があつて、いろいろ教えてもらいました。多くの会員に聞いてほしかった。また機会をみつけて話してほしいと思っています。
- ・会員のみなさんが独自に活躍しているので「紹介のコーナー」をつくってみました。年4回の機関誌の発行なので美術展、写真展の情報が間に合わないことが多々あるとおもいますが了解ください。なお、そうした情報を入手した時には広報部まで連絡ください。
- ・今年度も昨年に続いてオオハンゴンソウの防除を行います。会員のみなさんの参加をまっています。市民のみなさんにも呼びかけて大きな運動にしていきたい。
  - \*日時 7月25日(日) 10時から12時30分
  - \*場所 自然ふれあい交流館 集合 (別紙参照)
- ・<育成研修会>が10月「自然ふれあい交流館」で行われます(別紙参照)。よかったら友人、知人などに紹介してみてください。
- ・次回の「エゾマツ」の発行は10月下旬を予定しています。原稿は10月15日まで、広報部の佐藤まで送ってください。

# 鶴川にコオノトリが飛来してきて

コ ここまで飛んで来たよ  
オ おいしいものがありそう  
ノ のどかな風景もいいね  
ト 遠い旅路であったが  
リ 理解してくれる人たちに  
会えてうれしいよ

「エゾマツ」	2010年
夏季号	93号
2010、6、18 発行	
会長	春日 順雄